

令和5年度学校評価報告書

令和6年3月29日

北海道教育委員会教育長 様

北海道北広島高等学校長 様



次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- 1 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて、必要な能力や態度を身につけた生徒を育成する。
- 2 変わりゆく社会を探究・創造し主体的に学び続けられる生徒を育成する。
- 3 多様性を認め、他者と協働できる生徒を育成する。
- 4 心身ともに健康で、思いやりと社会性のある生徒を育成する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
カリキュラム・マネジメント	・「探究きたひろ」の内容を充実させ3年間を見通した計画を立てることができた。 ・学校評価を活用し、広く保護者の意見を聞き参考にする事ができた。	・充実した探究の内容をHPなどを活用し、取組の内容を広く発信してほしい。 ・自己評価を保護者の評価に乖離が見られた。自己評価が厳しいと感じた。
改善方策	・目標や教育活動の内容などを保護者に伝える機会を増やし、共通理解の下で充実した教育活動ができるよう努める。 ・「探究きたひろ」の内容を検討し、より効果的な取組となるよう精査する。	
地域の信頼に応える学校づくり	・地域との連携を積極的に行い、生徒の活動の幅を広げることができた。 ・生徒による学校紹介などに取り組み成果があったが、HPの充実が必要である。	・地域と連携した活動には意義があると思う。多くの生徒が参加できるようにしてほしい。 ・HPの更なる充実を求める。
改善方策	・利便性の高いツールへの切替を検討するとともに、積極的にHPの更新を行う。 ・関係各所と連携を密にしながら、今後も積極的に地域と連携した活動を進めるとともに、多くの生徒が参加できるように工夫する。	
きめ細やかな指導や支援	・授業改善への意識は高まったが、さらにICTの活用などに積極的に取り組む。 ・いじめへの対応や認知において対応が複雑化する中、柔軟に対応できた。	・不登校になる前の、面談等による予防的な対応が必要だと思う。 ・緊張を緩和できるような居場所作りをぜひ考えてほしい。
改善方策	・新学習指導要領に基づきながら、大学入試に対応できる力を養うための本校のスタイルを模索し確立する。 ・研修を行うなど、いじめに対する理解を深め、常に組織として対応する。	
組織的・系統的なキャリア教育	・計画通りに保護者進路説明会や進路ガイダンスなどを行うことができた。 ・外部講師による講話や出前授業、インターンシップ等が効果的であった。	・興味深い取組が次々行われ注視している。積極的に外部に発信してほしい。 ・卒業生を活用するなど、高校生にも卒業生にも
	・3年間を見通した取組となるよう、内容の精選と方法の効率化を図る。 ・卒業生や関連する組織、道の事業などを積極的に活用し、無理なくキャリア教育に関する取組を行うことができる形を検討する。	
公表方法	(1) 学校公式サイトへの掲載 (2) PTAだより（令和5年度第1号）への掲載	

3 添付資料

令和5年度北海道北広島高等学校評価書（教職員自己評価・学校関係者評価）

学 校 関 係 者 評 価

質問項目	自己評価	保護者	自己評価の 適切さ	改善の方策 の適切さ
1 カリキュラム・マネジメントの推進 (1)授業、学校行事、探究活動等の教育活動が、バランスよく満遍なく計画され行われている。	2.8	3.4	3.3	3.3
【成果】「探究きたひろ」において卒業生等を活用するなど内容を充実させ、課題や反省を基に3年間を見通した計画を立てることができた。 【課題】総合的な探究の時間が増えたことで授業時数を圧迫することになった。学校の経営方針等の周知・徹底が不十分であった。 【改善の方策】「探究ひたひろ」は内容を精査し、より効果的な取組となるよう検討する。PTAの行事を活用して学校の経営方針等を折に触れ説明する。				
1 カリキュラム・マネジメントの推進 (2)目標が明確化され、学校評価等を活用しながら、現状の把握、反省、改善等が適切に行われている。	2.8	3.2		
【成果】各分掌の重点目標と学校経営の柱をリンクさせ整理した。保護者に学校評価アンケートを実施し広く意見を聞き参考にした。 【課題】学校が目標にしていることをわかりやすく保護者に伝えることや活動内容を把握し評価してもらうことが難しかった。 【改善の方策】学校と保護者が共通した目標を持って教育活動を進め、それを適切に評価し改善できるように、目標や保護者アンケートについて詳細を説明する機会を設ける。保護者の意見を参考にしながら教育活動を行う。			3.3	3.5
1 カリキュラム・マネジメントの推進 (3)防災や緊急時の組織的な体制を確立したり、校内研修等の研修を推奨したりして、教育活動の充実に努めている。	2.8	3.0	3.7	3.5
【成果】校内の優れた実践を校内研修で情報共有するなど実効的な研修を計画的に行った。防災計画を見直し熱中症対策を付け加えた。 【課題】校内研修の時間を確保することが難しい。予想を超える気候変動への対応に苦慮した。 【改善の方策】課題を明確にして引き続き積極的に校内研修に取り組む。客観的な指標を基にしながら災害等に柔軟に対応する。				
2 地域の信頼に応える魅力ある学校づくりの推進 (1)HPやメール、各種通信等を活用して生徒・保護者・地域に適切に情報発信をしている。	3.1	3.2	3.7	3.7
【成果】各種通信を通して保護者に情報発信した。中学校訪問やインターンシップを活用して学校紹介を行った。 【課題】現在使用している緊急メールは利便性が低く、必要な文書が保護者に届いていないことがある。HPの更新に偏りがある。 【改善の方策】利便性の高いツールへの切り替えを検討する。HPの積極的な更新・発信を計画的に行う。				
2 地域の信頼に応える魅力ある学校づくりの推進 (2)エスコンフィールド北海道との共同事業や北広島市との連携事業を通して、地域との連携や協働的な活動を積極的に行っている。	3.3	3.4	3.8	3.8
【成果】エスコンフィールド北海道の開業に伴い、地域との連携事業も増え、可能な限り積極的に参加した。 【課題】当初の計画になかったイベントが次々と計画されるなど、対応に苦慮する場面があった。 【改善の方策】関係各所と連携を密にしながら、情報共有をしてできるだけ早く計画を立て、多くの生徒が参加できる形を模索する。				
3 生徒一人一人へのきめ細やかな指導や支援の推進 (1)授業評価アンケートの実施や公開授業週間、ICTの活用を通して授業改善に取り組んでいる。	2.9	3.2	3.7	3.5
【成果】授業評価アンケート・公開授業週間の実施、ICTの活用等に積極的に取り組み、授業改善の必要性を職員で共有することができた。 【課題】ICT活用のスキルに個人差がある。授業評価や公開授業をいかに授業改善につなげ、受験に対応できる力を養っていちやくさせるか。 【改善の方策】新学習指導要領に基づきつつ、大学入試にも対応できる力を養うための本校のスタイルを検討し確立させるために、校内外への研修を推奨し、データ分析等に積極的に取り組む。				
3 生徒一人一人へのきめ細やかな指導や支援の推進 (2)学校行事や部活動等の特別活動、交通安全指導や情報リテラシー等の指導により、生徒の自己指導能力を育成している。	2.9	3.2	3.7	3.3
【成果】外部講師を活用した講演会等を行うことができた。コロナ禍前に近い形で様々な学校行事を実施することができた。 【課題】授業時数を確保しながら行事や講演会を実施する時間を作ることが年次によっては難しい。 【改善の方策】本校の生徒に必要な行事・講演会を内容を精査しながら効果的に行う工夫をする。				

3 生徒一人一人へのきめ細やかな指導や支援の推進 (3)柔軟にいじめを認知するとともに、いじめの根絶に向けて、組織的かつ適切に対応をしている。	3.3	3.3	3.5	3.3
【成果】積極的にいじめ対策委員会等を開催していじめを認知し、情報共有と柔軟な対応を行った。 【課題】教職員・生徒ともにいじめの定義についての理解を深め、生徒の気持ちに配慮しながら対応することに苦慮した。 【改善の方策】些細なことも組織として対応する体制を整え、研修等によっていじめへの理解を深めるとともに、生徒へ日常的に指導する。				
3 生徒一人一人へのきめ細やかな指導や支援の推進 (4)各種の取組を通して、生徒が心身の健康を保ち、自他の生命を大切にする心を醸成している。	3.2	3.3	3.8	3.3
【成果】必要な時期に適切に行事を設定したり、保健だよりを活用しながら効果的な保健指導を行うことができた。 【課題】保健に関するアンケート等、各種調査結果を効果的な指導につなげるためのさらなる工夫が必要である。 【改善の方策】積極的に調査結果を周知し、学校教育活動の改善へつなげる。				
3 生徒一人一人へのきめ細やかな指導や支援の推進 (5)教育相談週間等を活用するとともに、特別な配慮を必要とする生徒に組織的に支援を行っている。	3.1	3.2	3.8	3.5
【成果】スクールカウンセラーや特別支援委員会を活用して、不登校傾向にある生徒の支援を行った。 【課題】原因が判然とせずに不登校になる生徒の対応に苦慮する場面が増えた。 【改善の方策】生徒支援委員会を活用して様々な角度から生徒にアプローチするとともに、悩みを抱える生徒を専門機関につなげるように積極的に働きかける。				
4 組織的・系統的なキャリア教育の推進 (1)外部講師を招いての進路講話や、総合的な探究の時間を活用したキャリア教育の取組により、キャリア発達を促している。	3.1	3.3	3.7	3.8
【成果】外部講師を活用した講話や出前授業、インターンシップ等を積極的に取り入れ、生徒の視野を広げる機会を設定した。 【課題】外部との関わりから年度当初に計画を立てることが難しく、他の活動との調整が困難である。 【改善の方策】卒業生や関連する組織、道の事業等を積極的に活用しながら、無理なく実施できる形を検討する。				
4 組織的・系統的なキャリア教育の推進 (2)保護者進路説明会や進路だより、進路カウンセリングによるガイダンスを活用するとともに、進路実現につなげるために講習や模試を効果的に行っている。	3.1	3.4	3.8	3.3
【成果】保護者説明会や進路ガイダンス、講習や土曜学習を計画通りに行った。 【課題】授業時数の確保や働き方改革の取組から、講習や土曜学習、模試への対応が困難になってきている。 【改善の方策】3年間を見通した効果的な取組となるよう、内容の精選と方法の効率化を図る。				
5 健康でいきいきとやりがいの持てる環境づくりの推進 (1)生徒と向き合う時間を確保するために働き方改革を進める。	2.5		3.5	3.7
【成果】時間外勤務の削減を人事評価シート目標に設定し、期首・期末面談で必ず話題にするなどして働き方を意識させた。 【課題】新たな取組や対応等を求められることが多く、業務量が全く減らない現状がある。 【改善の方策】ICTを活用し、業務を共有したり、効率を高めることで無駄をなくす。				
5 健康でいきいきとやりがいの持てる環境づくりの推進 (2)日々の対話を大切にした風通しの良い職場をつくる。	2.7		3.5	3.2
【成果】積極的なコミュニケーションを推進し、日頃から情報共有することができた。 【課題】時間にゆとりがなく、面談等をする時間が足りなかった。 【改善の方策】率先して日常のコミュニケーションをとることを推奨する。				